

## 南風原町 mobi 導入の目的に関する検証について

・幹線道路が主な公共交通ルートとなっていることから、特に南北移動・幹線外地域の利便性が低い状況について

(検証)

既存の路線バスは東西幹線中心のため、南北方向や幹線外地域の移動利便性が低い。一方、オンデマンド交通は月平均約 1,400 人の延べ利用があり、幹線外地域の移動を補完していると評価できる。

---

・公共交通の利便性の低さから、自家用車に偏った移動手段となっている状況について

(検証)

平日の利用が中心で、通勤・通学・買い物などの日常移動を支え、既存バスで対応が難しい需要を補完している。また、自家用車依存の軽減にも一定の効果があると評価できる。

---

・高齢者・子ども等の移動困難者への移動支援の状況について

(検証)

10代と70代の利用が多く、若年層から高齢層まで幅広く利用されている。特に高齢者の通院や買い物などの生活移動を支えており、移動困難者支援として機能していると評価できる。

---

・観光客の移動手段の確保について

(検証)

利用は商業施設、学校、医療機関への生活移動が中心で、日常的な移動手段として機能している。一方、観光利用は限定的であり、今後は情報発信の強化などにより観光需要の拡大を図る必要がある。

---

・誰もが気軽に使えるオンデマンド交通の提供(定額制)について

(検証)

予約の約9割がアプリ経由であり、デジタル利用は一定程度定着している。一方で、高齢者などへの配慮も重要であり、電話予約や問い合わせ対応を含めた支援体制の継続が必要である。

---

・地域事業者と連携したまちの活性化について

(検証)

現状は道路運送法第21条に基づく域内交通として機能しているが、地域事業者との連携によるまちの活性化や、他交通機関との接続強化による利便性向上が今後の課題である。

---

・移動データ活用による既存公共交通との相乗効果創出について

(検証)

時間帯によっては需給バランスに課題が見られるため、今後は利用動向を踏まえつつ、他交通機関との接続改善による乗り継ぎ利便性の向上を図る必要がある。

---

・持続可能な移動サービスの構築について

(検証)

利用増加や高い満足度から、日常的な移動手段としての有効性は評価できる。一方で、令和7年度の実利用者数は512名にとどまり、特定利用者による月額500円で平均約10回の利用は、運行コストとのバランスや新規利用者の利用機会に課題を生じさせている。今後は、料金体系の見直しが必要である。

---